

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和 8 年10月

枚方市立牧野小学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の概要

○国語について

平均正答率においては、全国平均と比べて下回る結果となりました。

各問いについては「話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる」問いにおいて、全国の平均を上回る結果となりました。しかし、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる」問いについて、全国の平均より大きく下回る結果となりました。

○算数について

平均正答率においては、全国平均と比べて、下回る結果となりました。

各問いについては、学習指導要領の領域Bの「図形」における問いにおいて、全国の平均を大きく下回る結果となりました。しかし、学習指導要領の領域Aの「数と計算」における問い「数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる」において、全国の平均を上回る結果となりました。

算数において成果があった設問 【成果が見られた設問】

問題の概要

数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる。

ことねさんは、ある動物園について調べています。

(1) 先月の入園者数は74291人でした。
74291を、千の位までのがい数で表します。百の位の数を四捨五入してできる数を、下のア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 70000
- イ 74000
- ウ 74300
- エ 75000

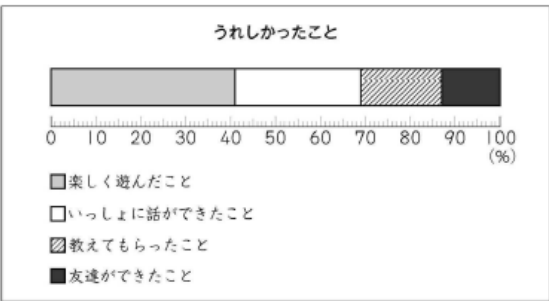
考察

本設問では、四捨五入を用いて概数で表すときは、ある単位未満のところを処理する場合に、その単位の一つ下の位の数に着目し、どのように処理すればよいかを判断できるようにすることが大切である。本校平均正答率は、全国の平均正答率より4%上回っており、学習指導要領の数と計算の領域・内容の概数に関わる事項を身につけることができていると言える。

問題の概要

帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる

(4) 交流会のあと、さくらさんたちは、1年生にどんなことがうれしかったかについてアンケートをとり、下のグラフにまとめました。



「いっしょに話ができたこと」と回答した人の割合は、全体の約何%ですか。最もふさわしいものを下の ア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 約20%
- イ 約30%
- ウ 約40%
- エ 約70%

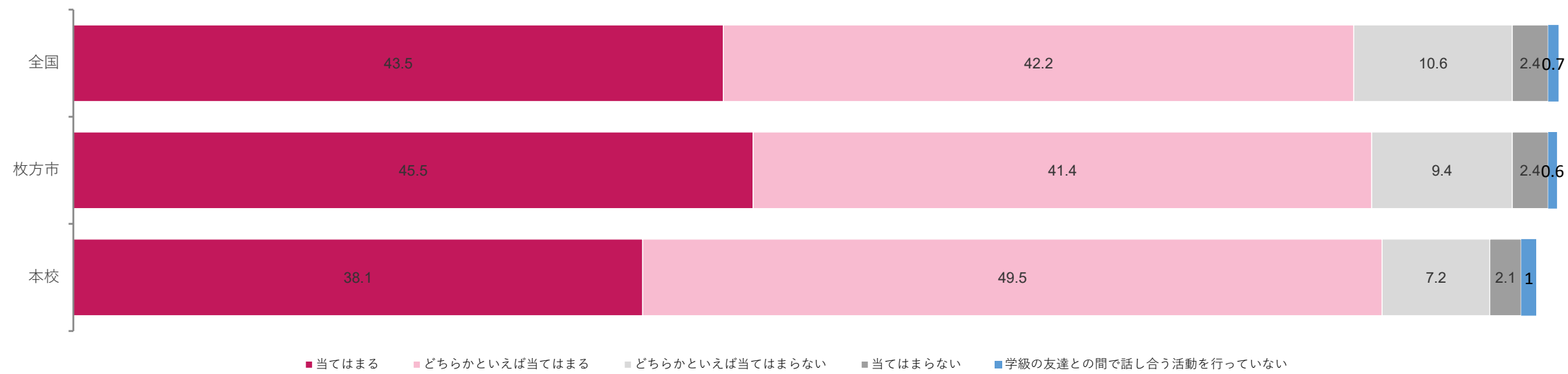
考察

本設問では、帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかを問うている。ここでは、帯グラフは帯状の長方形を割合に対応させて幾つかの長方形に区切って表したものであることを理解し、目盛りを数えたり読んだりすることが必要である。本校の平均正答率は全国の平均正答率と変わらず、円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解することができている。

質問紙調査の結果 【成果が見られた項目】

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



（考察）
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか」という、学習の深まりを問う質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定的な回答が87.6%と、全国や枚方市と比べて高い結果となりました。本校の、研究テーマ「言語活動を通して、自分の考えを表現する力の育成」の取り組みの成果である言えます。また、協働的な学習や、探究的な活動を通して、友達と話し合う活動が増え、学習の学びの充実さを感じることができていると言えます。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

授業では以下の取り組みを推進します。

- ・基礎基本の学習を丁寧に行い、基礎学力の定着を引き続き指導していきます。
- ・児童が自ら学びの目標を設定し、学習の進め方を選択できる、課題解決学習や自由進度学習を促進します。
- ・学習過程で身につけた知識・技能を、活用する、思考・判断・表現力を育成するため、児童同士が協力して課題を解決する場面を増やし、互いの考えを共有し、深める場面を作り、協働的な学びを更に推進し、必要な情報や、原因、結果、考察した内容などを文章で書かせる機会を増やすことを意識した授業を実践していきます。

(2) 家庭学習について

- ・「家庭学習の手引き」に基づき、『学年×10分以上＋α』の学習量や自主学習など、宿題以外の学びのテーマを設定し、課題に取り組み、自発的な学びを促し、主体的な家庭学習の習慣づけを指導していきます。
- ・家庭学習が学力向上に重要な役割を果たしています。授業で学んだ内容を家庭学習でさらに深めるための工夫を行います。例えば、授業で取り組んだ課題の続きを家庭で行い、次の授業で発表するなど、シームレスな学習を取り入れていきます。そのためにも、校内研究の取り組みを充実させ、身につけた資質・能力を活かすことにより、主体性を育み、自ら課題に向かっていく意欲を高め、家庭学習においても自己調整して取り組んでいく姿を目指します。